



高校も大学も硬式野球部。滋賀大学で文武両道！

◇ 今回は、近藤健人さん（滋賀大学経済学部社会システム学科）のレポートです！

関高校の卒業生として、私の高校・大学生活をご紹介します。高校時代も大学時代も、硬式野球部での活動に特に力を入れてきたので、そのエピソードが中心になりますが、少しでも皆さんの参考になればと思います。

【高校時代】 私の学生生活で最も力を入れてきた活動は、間違いなく硬式野球部での活動です。関高校時代も、中学まで続けてきた野球を続けたいと思い、迷わず硬式野球部に入りました。正直、関高校は地域では県内有数の進学校であるため、部活動に力を入れている強豪校にはどうしても実力で劣っている部分がありました。しかし、そんな高校にも絶対に勝ってやりたいという気持ちで毎日一生懸命練習していました。

もちろん、勉強の方も部活動が終わった後に毎日塾に通ってやっていました。部活の疲れで寝てしまったりしていましたが（笑）今、部活に打ち込んでいて本当に志望大学に合格できるのか、と不安に思っている人も多いと思いますが、そういう人ほど絶対に部活を妥協してほしくないです。というのも、実は私自身も、このまま部活に打ち込んでいてちゃんと志望校に合格するのか不安で仕方なかったからです。もう4年も前のことになりますが、部活に打ち込んだ3年間は今でも私の中での財産になっていますし、引退した後頑張れば、ちゃんと志望校にも合格できました。だから思いっきり部活に打ち込んでください！

【大学時代】 大学でも、数ある選択肢の中から硬式野球部という選択を選んだのは、高校の最後の大会で悔しい思いをし、このままでは野球をやめられないなと思ったからです。また、滋賀大学硬式野球部は全国の様々な強豪校と呼ばれる高校出身の選手がおり、そういった選手と一緒に野球ができる機会はそうないと思ったからです。

実際、周りには自分より高いレベルで野球をしてきた経験を持つ人ばかりで、プレーしていく中で野球に対する考え方や取り組み方を考えさせられることが多くありました。その中で試合に出て活躍したり、勝利したりすることにはとてもやりがいを感じましたし、何より楽しかったです。

野球部に入り、今までとの違いを一番感じたのは、野球部に関するすべてのことを選手自身で運営していく、ということです。プロ選手を輩出するような強豪でもない限り、大学での部活動は自分たちで運営していくことがほとんどです。一生懸命野球をするのはもちろんですが、野球部



として活動していくためには、グラウンドを借りたり、リーグ戦の運営をしたり、部費を管理したり、日々の練習内容を決めたりするなど、様々な役割を自分たちで担い、責任をもってその役割を果たしていかなければなりません。中学、高校のころは、こんな大変なことをすべて監督や顧問の先生がやっていたのだなと思うと、今更ながらに感謝しています。

私はOB担当という役職を担い、OBの方々からOB会費を集めたり、年に一度開かれるOB総会というものを運営したりしました。電話で直接会ったこともないOBの方に会費を納めていただくようお願いするのは気が引けましたし、熱心なOBの方から説教をいただくこともありましたが、悩み、試行錯誤しながらもこの仕事をやり抜くことができました。

このような、組織の中で自分の役割に責任をもって果たしていくことは、大学生活で学んだ一番大事なことであると感じています。就職活動でも、チームの中で自分の意見をしっかり言うことやOBの方との意思疎通を図ってきた経験が生き、面接や面談でも自信をもって話すことができました。その結果、岐阜県の大手の地方銀行から内定をいただくことができました。少子化で小学校と中学校が廃校になってしまった経験から、岐阜県の地方創成のために働きたいと思っていたので、春からは岐阜県のために銀行員として頑張りたいです。



【後輩のみなさんへ】 関高校の皆さんは進学して大学生になる人がほとんどだと思います。大学を卒業したら、社会人になって仕事中心の生活になります。大学生は、何かひとつのことに打ち込むことができる最後のチャンスです。だから、大学生になったら、四年をかけて打ち込む価値のあるものを見つけて、それに打ち込んでほしいです。私の場合は野球でしたが、それは人それぞれのものがあると思います。やっぱり何かに打ち込んでいる人には魅力がありますし、その経験は必ず就職活動や社会に出てから役に立つからです。

受験勉強は大変ですが、それが報われたな、と思うくらいに大学生活は楽しいし、充実していますので頑張ってください！

